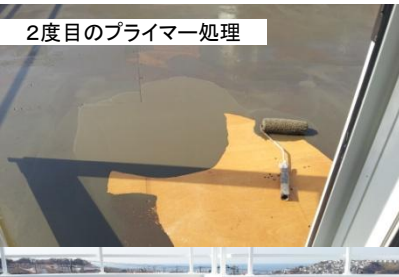


平成24年3月17日雨の状況です。

2度目のプライマー処理



2度目のプライマー処理



コーナー入り隅部処理



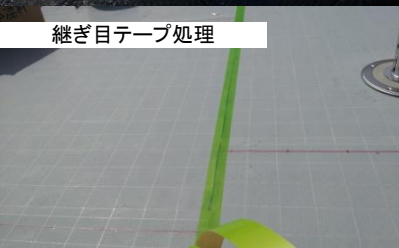
面木取付



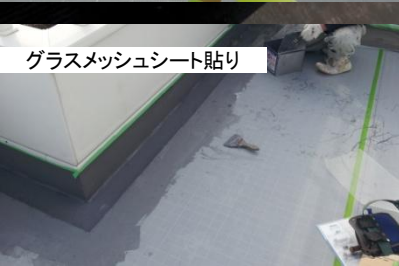
自着脱気シート貼り



継ぎ目テープ処理



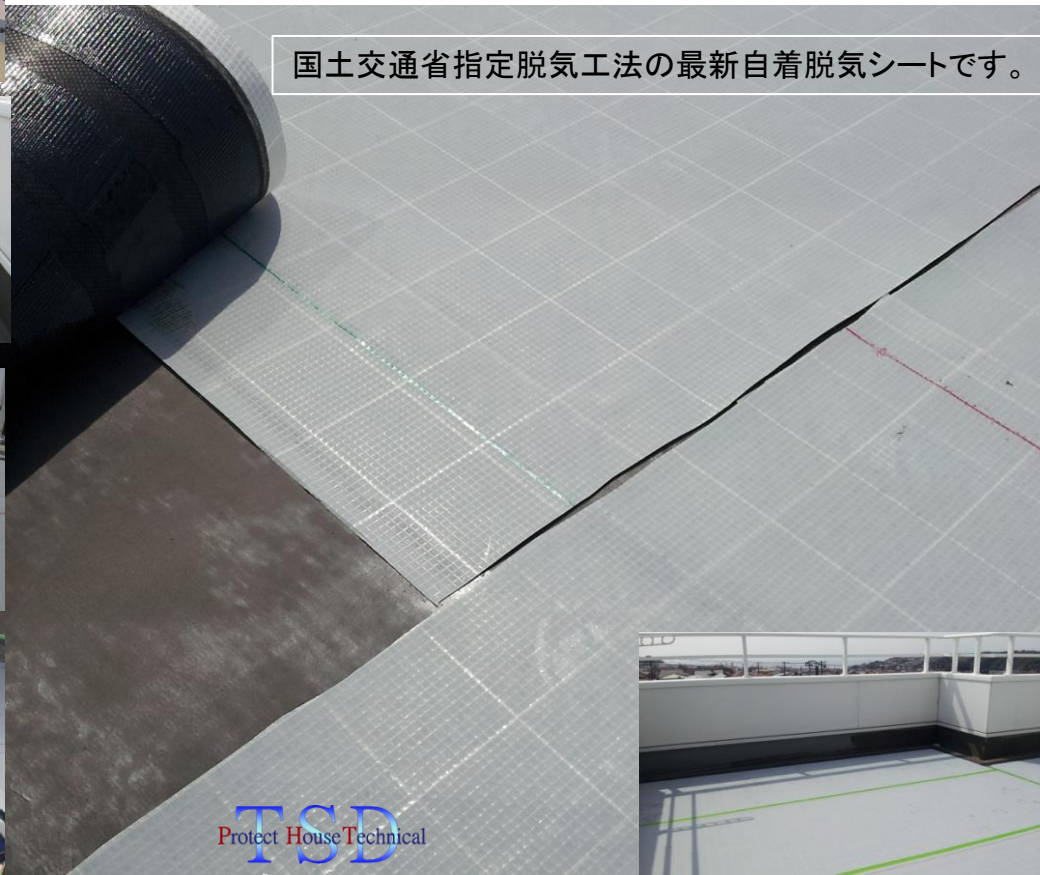
ガラスメッシュシート貼り



断熱材全体の湿気、は上部貫通穴より、ウレタン防水に封じ込められた湿気は脱気シートから、煙突により排出される工法にかえさせて頂き、工事続行させて頂きました。

3月16日一度目2kg/m<sup>2</sup>ウレタン防水主剤流し完了し、17日正午点検水溜め試験プール状態の中(オーバーフローまで満水)での雨漏りは一切ありませんでした。お天気が回復次第、2度目の主剤2kg/m<sup>2</sup>を施し遮熱トップコートで防水の完了となります。ひとまずはご安心下さい。

国土交通省指定脱気工法の最新自着脱気シートです。



内側から見た状況です



外側から見た状況です



↑ビス止め



↓パッキン

雨漏りの原因カ所裏面に構造材に隙間があり、地震などの再、集中的に負荷がかかりグラスメッシュごと防水が切れていました。

構造ベニヤと防水入り隅も内側よりビス止めを施し、隙間に15mmパッキンを埋め補強させていただきました。耐震力に影響を与える腐り等はありませんのでご安心下さい。



↑ビス等の錆び



↑断熱材の吸水

構造材、アイシネン断熱材は全体的に湿気を吸っていますので、旧防水層にウレタン防水を塗装する方法では、防水の剥がれ、カビ、腐り等が発生する恐れがありますので、既存ベニヤの撤去、内部確認及び防水方法を変えさせていただきます。



↑構造材の吸水



↑根太の補強

←時間の許す限り天日干しをおこないました。



←ベニヤ繋ぎ目下地材入れ

既存ベニヤはサネ貼りの為、繋ぎ目の下に下地材が無い構造でした。又、根太の下土台材の間隔も1m近くあり、たわみの原因でしたので、補強させていただいてから全体に新しい12mm合板を増し貼りしました。

←上記雨漏りカ所以外2カ所からの雨漏り染みを発見しましたが、極少量の雨漏りでしたので、構造材への悪影響もありません。



↓雨漏り染み

平成24年3月17日

オーバーフロー配管まで水溜めしたプール状態での水漏試験検査の結果屋上から2階天井壁床1階天井壁床への雨漏りは完全に止まり防水層下天井全般でも雨漏りは発見されませんでした。

防水工事完全完了後、内装作業に取りかかります。2階内装修理完了後、1階荷物を移動し、残り工事を完了させていただきます。



↑全体に補強しました。